郷土かわらばん

路傍の石の謎

西深井にある八坂神社のそばに「成田山」と彫られた石が立っています。よく注意しながら歩いていると、道端に文字が刻まれた石がいくつも発見できます。これらの石は一体なんでしょうか？

道標

一つには、道標です。江戸時代、道路を通行する人のために作られた道しるべで、路傍に立てられ、地名や方向、距離などが記されています。

現在は移動されているものもありますが、現地点から目的地に近づくための道しるべでした。

一見知らない名前が書かれているように見えますが、現在でもおなじみの地名だったりします。

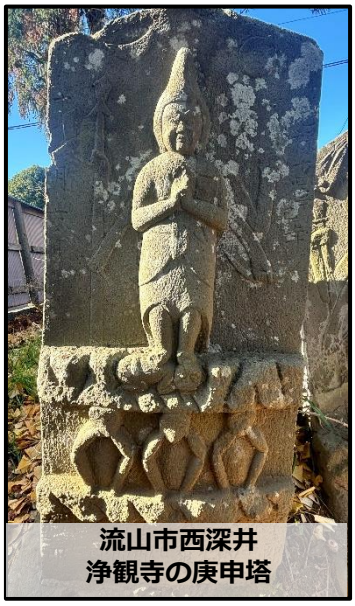
左の写真は、流山街道にある道標です。右側面には「なり田ふせ」左側面には「の田きの崎みち」と標されています。なり田は成田、ふせは布施（柏市）、の田は野田、きの崎は木野崎（野田市）という地名です。

左側面 「の田　きの崎みち」	右側面 「右　なり田　ふせ」

庚申塔

他には、「庚申塔」として作られたものもあります。

庚申信仰という、中国から伝わった信仰があります。平安時代から、庚申の日（十干十二支で60日に一度巡ってくる）の夜は眠らず、身を慎めば長生きできるという「庚申待ち」が行われていました。江戸時代になると、庚申待ちを繰り返してきた記念として「青面金剛」や「庚申塔」という文字を刻んだ石碑を立てるようになりました。



流山市西深井
浄観寺の庚申塔

庚申塔はシンプルな形のものや、恐ろしい顔をした青面金剛像が彫られたもの、日光東照宮でおなじみの「三猿」が彫られたものなどがあり、路傍で出会うことができます。

森の図書館
twitter
@N_mori
noto

発行
流山市立
森の図書館
指定管理者
株式会社
すばる

三郷流山橋開通！

２０２３年11月、「三郷流山橋有料道路」が開通しました。開通区間は、埼玉県三郷市前間地内（県道三郷松伏線）から 千葉県流山市三輪野山地内（県道松戸野田線バイパス）で、約２キロの長さです。通行料金は普通車で１５０円。この橋の登場で、渋滞の緩和が期待できそうですね。

ここで、流山にある「流山橋」の歴史についてご紹介します。

流山橋

今はなき初代流山橋は、江戸川の「丹後の渡し」があったところのすぐ近くにありました。

全長３８８メートル、幅員５．６メートルのコンクリートの橋でした。昭和10年に完成したもので、建設費は総工費８万円。木製の橋が普通であった当時としては大工事だったようです。

当時は江戸川にかかる橋が少なく、埼玉側との行き来が不便でした。流山町は町の発展にとって不利だと危機感を持ち、江戸川に早く橋をかけてほしいと「江戸川架橋速進期成同盟会」をつくり熱心な運動を行いました。

しかし、寿命はたった30年でした。初代流山橋の５本の橋脚は、いまだに川の中に残っています。また、赤城神社の石段付近に「流山橋架設記念」の碑、埼玉県側には「ながれやまばし」の記念碑が三郷市文化会館の内庭に建っています。

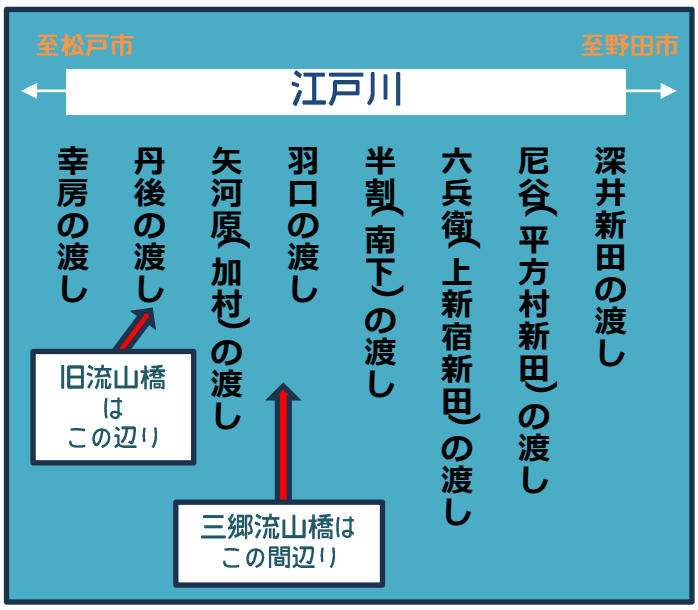
そして、昭和40年、自動車が大型になり、橋上でのすれ違いが難しくなったことなどから、現在の流山橋が新たに誕生しました。旧橋から約四百メートル下流に架け替えられました。

渡し場

橋がなかった時代には、小舟を利用して流山側と埼玉側を行き来するために使われていた渡し場が８つありました。

約一キロメートルの間隔で並んでおり、橋の開通以前は川を渡る重要な交通手段でした。その中の「丹後の渡し」は、新選組が流山に来る際使用したともいわれています。

現在は渡し場はありませんが、標柱が建てられ、「渡し跡」であることを伝えています。



参考文献

●『流山庚申塔探訪』（流山市教育委員会／編 流山市立博物館　２００７年）
●『東葛の橋めぐり事典』（流山市立博物館友の会／編　たけしま出版　２０２２年）
●『東葛観光歴史事典』（流山市立博物館友の会／編　崙書房出版　１９９７年）
●『流山市史　民俗編』（流山市立博物館／編 流山市教育委会　１９９０年）
●『チェック！流山のむかし』（流山市立博物館／編著　流山市教育委員会　２０１６年）
●『ふるさと流山のあゆみ』（流山市立博物館／編集　流山市教育委員会　２０１８年）

いずれも流山市立図書館の所蔵資料です。
協力：流山市立博物館